

再評価結果（平成19年度継続事業箇所）

担当課：都市・地域整備局街路課
担当課長名：松谷 春敏

事業名	めいてつなごやほんせんとう 名鉄名古屋本線等		事業区分	街路	事業主体	愛知県
起終点	(名鉄名古屋本線) 自：愛知県刈谷市一ツ木町 至：愛知県知立市内幸町 (名鉄三河線(豊田方)) 自：愛知県知立市池端 至：愛知県知立市山町 (名鉄三河線(碧南方)) 自：愛知県知立市池端 至：愛知県知立市上重原町				延長	4.3 km
事業概要 本事業は、名古屋鉄道の知立駅付近の名古屋本線約1.6 km、三河線2.7 km区間を高架化して、10箇所の踏切を除却するとともに、26路線の交差道路を整備するものである。駅前広場整備、土地区画整理事業などの関連事業を併せて行い、交通の円滑化と都市内の環境改善に寄与する。						
H9年度着工準備		H9年度都市計画決定		H12年度用地着手		H19年度工事着手予定
全体事業費		約421億円		事業進捗率	9%	供用済延長 0 km
計画交通量		144,488台/日				
費用便益比	B/C (事業全体) 1.8 (残事業)	総費用 (残事業)/(事業全体) - / 362億円 事業費： - / 362億円 維持管理費： - / 0.07億円	総便益 (残事業)/(事業全体) - / 654億円 走行時間短縮便益： - / 651億円 走行費用減少便益： - / 3.1億円 交通事故減少便益： - / 0.12億円	基準年		平成18年
事業の効果等 ・都市の再生（中心市街地内で行う事業であり、土地区画整理事業と連携しまちづくりに寄与する。） ・個性ある地域の形成（名鉄名古屋本線等の高架化により知立駅地区の一体的市街地の形成を図る。） ・円滑なモビリティの確保（特急停車駅である知立駅へのアクセス向上を図る。）						
関係する地方公共団体等の意見 本事業は、知立市中心市街地の活性化、交通混雑の緩和に重要な役割を果たすことが期待されており、知立連続立体交差事業協議会、知立市から早期整備の要望を受けている。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 知立駅周辺は、鉄道と道路の平面交差が連続する区間であり、主要踏切では慢性的な交通渋滞の発生や市街地の分断など様々な問題が発生するとともに、近年では商業機能の衰退等都市機能の低下が顕著にみられる状況となっている。また、平成9年及び平成11年に事業区間内で踏切事故が発生しており、平成9年には死亡事故も発生しています。 このため、知立駅周辺においては、道路交通の円滑化と利便性向上、中心市街地機能の再生・発展及び安全な都市基盤の形成が重要な課題となっている。						
事業の進捗状況、残事業の内容等 現在の事業の進捗状況は、事業費ベースで約9%ですが、名鉄名古屋本線仮線の用地買収は概ね完了しており、工事着手に向け、詳細設計を実施している。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 平成12年度以降実施してきた仮線等用地買収が平成19年度には完了し、平成19年度に仮線工事着手、平成21年度に高架本体工事への着手を予定しており、特に問題もなく、計画どおりに事業を進めることが可能である。						
施設の構造や工法の変更等 新工法等による大規模なコスト縮減はないが、再生材の使用等によりコスト縮減を図るとともに、「あいくる材」の積極的な活用等により環境負荷の低減に努める。						
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上のことを勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考える。					

事業概要図

